

鈴木貫太郎 元内閣総理大臣

鈴木貫太郎は、1867(慶応3)年12月24日、関宿藩士・鈴木由哲と妻きよの長男として関宿藩の飛地である和泉国大鳥郡伏尾新田(現在の大阪府堺市中区伏尾)で生まれました。その後、関宿町(現在の野田市)に居を移しますが、1877(明治10)年群馬県前橋市に転居し、1884(明治17)年に海軍兵学校に入校。そして1923(大正12)年海軍大将に、その後連合艦隊司令長官、昭和天皇の侍従長などを歴任しました。しかし、1936(昭和11)年に起きた二・二六事件では瀕死の重傷を負いました。また1945(昭和20)年4月7日、内閣総理大臣に就任し、数々の困難を踏み越えながら太平洋戦争を終戦に導き辞職しました。



わずか4か月余りという短期間でしたが、大役を終えて幼少を過ごした郷里へ帰り、静かに余生を送りました。故郷では、地域の特性を活かし河川敷の草を利用した酪農に着目しました。貫太郎は専門の講師による講演会を開催するなど本格的に酪農を広げていきました。

当館の記録では、貫太郎翁は3度来館しています。最初は1930(昭和5)年4月27日、野田醤油株式会社、当会館、そして清水公園を視察。2度目は1946(昭和21)年8月7日に「終戦に関して」と題した講演会を、また同年10月8日にも「終戦の表情」と題した講演会を当会館で開催しています。

それから約2年後の1948(昭和23)年4月7日、「永遠の平和、永遠の平和」という言葉を最後に亡くなったといえます。

展示の写真は服装や勲章などから考察して海軍大将時代のもので、1923(大正12)年から1933(昭和8)年の間に撮影されたものと思われます。

[参考資料] 『野田市勢要覧2005 NODA CITY』野田市企画財政部秘書広報課・2005年3月発行
／『戦後七十周年記念誌 貫太郎翁の想い出』野田市教育委員会・関宿を語る会・2015年8月4日発行
／[協力] 野田市教育委員会生涯学習課、野田市郷土博物館 『鈴木貫太郎伝』鈴木貫太郎伝編纂委員会・1960年8月